

# 社会貢献 大賞

# 「パチンコ大衆文化・福

愛知県遊技業協同組合（以下愛遊協）の25周年記念事業として、昭和51年（1976年）にスタートした「パチンコ大衆文化・福祉応援賞」。愛知県下で文化・福祉に関わる活動を行い、地域社会に貢献した個人・団体を表彰し、活動資金を贈呈する社会還元事業である。その地域密着性と独自性、そして継続性が高く評価され、社会貢献大賞受賞となった。

● 愛知県遊技業協同組合  
----- 組合員数 381人



木下 栄吉 理事長

新理事長に選ばれた年に、このような素晴らしい大賞をいただき、感激とうれしさでいっぱいです。全国的に見ても類のないユニークな事業として、これからも地域の大衆文化と福祉活動にできる限りの応援をしていきたいと考えています。



## 社会貢献大賞

### 選考理由



社会貢献活動審査委員会 委員  
脇田 直枝 氏

昭和51年（1976年）の開始からもう21回目になるというその継続性と規模の広さが、審査員の圧倒的多数の票を集めました。スポットの当たりにくい草の根的な活動を支援してきたこの事業の受賞者のなかには、今ではメジャーになった方々が多数おり、「日本の文化の揺りかご」と言ってもいいと思います。これからも、地道に頑張る人々をステージに上げ、励ましてあげることを期待しています。

### 地道な社会貢献活動の 一つひとつを評価

平成18年（2006年）で21回目を迎えた「パチンコ大衆文化・福祉応援賞」（平成10年〈1998年〉までは「パチンコ大衆文化賞」）の贈呈。応募総数300件のなかから、各界の有識者による厳正な審査により「大衆文化部門」と「社会福祉部門」合わせて12の活動を選考。愛知県知事や名古屋市長臨席のもと、表彰式が行われた。

愛遊協の活動の根幹である“地域への貢献”事業の1つとして発足した同賞は、芸術、文化、芸能、スポーツ等の分野での活躍や、地域における実践的な福祉活動を対象に、日頃あまり脚光を浴びることのない草の根的な活動にまで目を向けることを主旨としている。現在では、その継続性と社会奉仕性が認められ、多数の後援を得ているだけでなく、行政や県民からも多くの賞賛が寄せられている。

「20年以上にわたって続けてきたこの事業は愛知県内にしっかり根付き、恒例行事として広く認知してもらえるまでに成長しました。その業績が認められ、社会貢献大賞を受賞したことは、このうえもない喜びです」と語るのは、愛知県遊技業協同組合の専務理事を務める廣瀬松夫氏。

同賞の継続にあたっては、回を重ねていくことによるマンネリ化の懸念もあり、実は15回、20回の節目で打ち切ることも考えていたという。しかし、その考えを打ち消したのは、応募者からの強い継続要望や、愛知県知事からの「行政の手が届かない分野に光を当ていただき、感謝しています」という賛辞の言葉等、周囲からの強い期待と評価であった。

「表彰後には、受賞者から自分が公演する舞台のチケットをいただいたり、丁寧なお礼状をいただいたりします。受賞された方々の喜びを肌で感じるたびに、この事業を続けてよかったと思います」

# 「事業」の贈呈の賞援祉

愛知県遊技業協同組合



現在、愛知県内では同賞の受賞を目標に、地道に活動を継続する個人・団体も多く存在するという。

「これまで、大衆文化と社会福祉に貢献してきた方を中心に表彰を行ってきました。今後はこれに限らず、社会的に大きな関心を集める“環境問題”に熱心に取り組んでいる方や、地域の安全・安心のために努力しているボランティアの方など、表彰対象を広げて功労に報いたいと考えています」

「パチンコ大衆文化・福祉応援賞」は、これからも地域社会のために活動に励む人々を照らす事業として、一層の充実を図りながら続いていくことだろう。



愛知県遊技業協同組合  
専務理事  
廣瀬 松夫 氏

## パチンコ大衆文化・福祉応援賞 歴代受賞者(敬称略)

### 第14回 平成11年(1999年)

＜大衆文化部門＞千草会／少年ボーイズ／西川長寿／加藤かね／ゴトー竜／大須大道町人祭実行委員会＜社会福祉部門＞豊橋ふれあいおもちゃ図書館／在宅福祉サービス団体さわやか愛知／渡辺幸／山口峯生／子育て支援のNPOまめっこ／障害児学童のびのびクラブ

### 第15回 平成12年(2000年)

＜大衆文化部門＞村屋六秋／佐藤正明／関山三喜夫／中部邦楽総合教室／松尾葉子／松原喜久子＜社会福祉部門＞稲沢・中島地域重度重複障害者親の会／小倉國夫／金子哲三／國島典子／徳田百合子／豊橋点字情報クラブ

### 第16回 平成13年(2001年)

＜大衆文化部門＞石田秀翠／グリーンエコー／下垣真希／杉江良子／九代目・玉屋庄兵衛／林正道／三宅千代＜社会福祉部門＞アスペ・エルデ親の会 三河支部／加藤政和／手話サークルひまわりの会／鈴木林／通所施設づくりの会「みき」／点訳「ボチの会」

### 第17回 平成14年(2002年)

＜大衆文化部門＞田家阿希雄／竹内菊／中野金弘／四世・野村小三郎／半田しのめコーラス／風景の会＜社会福祉部門＞イキイキライフの会／一宮市朗読グループ「ききょう」／アルコール依存症回復施設「仲間の会作業所」／21世紀の学校を作る会／点訳ボランティアはづき会／特定非営利活動法人 もやい／★特別賞 ボラみみより情報局

### 第18回 平成15年(2003年)

＜大衆文化部門＞黒川譲二／新城歌舞伎／鈴木笑子／涂善祥／野村又三郎／尾西市民オーケストラ＜社会福祉部門＞音訳グループ あげぼの会／安城市ボランティア連絡協議会／上野和彦／岡本典子／ボランティア活動団体 クニハウス／中井香代子

### 第19回 平成16年(2004年)

＜大衆文化部門＞阿部繁弘／大治太鼓保存会／澤脇達晴／水野誠子／三田村博史／名寿会＜社会福祉部門＞愛知理美容福祉協会 キュー年みらいグループ／かけこみ女性センターあいち／東海音訳学習会／西春町民劇団 福祉座／呆け老人をかかえる家族の会／明正第一作業所

### 第20回 平成17年(2005年)

＜大衆文化部門＞石田音人／城戸和子／劇団希求／三遊亭円丈／知立からくり保存会／半田ジュニアプラスバンド＜社会福祉部門＞愛知バリアフリーテニスコミュニケーション／一宮ボランティアグループリーダーの会／NPO法人外国人医療センター／NPO法人チャイルドラインあいち／NPOミニ里親会／鈴木良美

### 第21回 平成18年(2006年)

＜大衆文化部門＞稲丹妙寿／越智久美子／C.U.G.Jazz Orchestra／辻村三／三河伝統手筒花火連合会／安江都々子＜社会福祉部門＞愛知県要約筆記者連絡会／川田太志／桜花学園高等学校 インターアクトクラブ／黒田和子／奥谷いつ子／重度身体障害者の施設 人形劇団「紙風船」



第1回パチンコ大衆文化賞ポスター



第1回パチンコ福祉応援賞ポスター



第2回パチンコ大衆文化賞ポスター



第2回パチンコ福祉応援賞ポスター



第3回パチンコ大衆文化賞ポスター

## TOPICS

平成19年(2007年)5月23日、「第22回パチンコ大衆文化・福祉応援賞」の授賞式が開催されました。



# 大衆文化部門

昭和51年(1976年)、当時の愛遊協理事長であった小野金夫氏によって創設された「パチンコ大衆文化賞」。パチンコ=大衆、そして文化であるという思想から命名された同賞は、芸術や芸能、音楽といった大衆文化を通じた地域貢献活動を表彰している。

## パチンコ大衆文化賞(大衆文化部門)創設者より



愛知県遊技業協同組合 相談役(元理事長)／  
TAIHO GROUP会長  
元全日本遊技事業協同組合連合会 理事長

小野 金夫 氏

### 20年にわたり、愛知の人々の活動を支援してこれた喜び

愛遊協結成25周年の記念事業として、自主制作番組の放送や、養護施設児童のサーカスへの招待等を行っていた当時、もっと社会に貢献できる事業はないだろうか、という気持ちがありました。そうしたなかで、まず「文化」という大きなテーマが浮かび、さらにパチンコは大衆の遊びであることから、「大衆文化」をキーワードにした事業を実施することに決めました。そして、パチンコ発祥の地であり、たくさんの人々がパチンコという大衆文化を愛してくださっている愛知県で、大衆文化に貢献された方々を自薦他薦を問わずに公募して表彰したらどうだろうか、という発想から生まれたのが「パチンコ大衆文化賞」です。

初めのうちは、このユニークな事業に皆様戸惑っていました。受賞者を選考する審査員のなかには「私はパチンコはあまりやらないけれど良いのですか?」と心配する方がいましたし、選考しても表彰を辞退される応募者がいるのではないかと、という不安もありました。ですが、回を重ねるごとに、パチンコの名称は関係なく、地元の大衆文化に貢献した人を表彰する賞なのだということを皆様理解してくださるようになりました。また、これまでに一人も表彰辞退者がなかったことも、大変嬉しいことです。

「パチンコ大衆文化・福祉応援賞」を20年以上も続けてこられたことは、私にとっても最大の喜びです。地域の人々の文化活動・福祉活動を支えるこの事業を“大切な宝”として、これからも取り組んでいってほしいと思います。

## 平成18年度「大衆文化部門」受賞者一覧

### ■ 稲舟 妙寿さん

邦楽家(小唄・三味線 稲舟派二代目家元)／名古屋市

愛知県内に4か所の教室を設け、伝統芸能の継承・指導を行っている。中学校の選択授業にて三味線の指導にあたるほか、小・中学校からの要請に応じてボランティアで指導し、三味線に理解と関心を持ってもらうための教育に尽力。また「童小唄」の作曲も手掛け、子ども向け小唄の普及にも貢献している。伝統芸能の継承と息の長い活動が評価されて受賞。

### ■ 越智 久美子さん

クラシックバレエプリマ／名古屋市

“低料金で本格的なバレエをご家族で”という主旨のもと、毎年12月のクリスマスシーズンに18年間連続でバレエ公演を開催。名古屋市からの依頼により、子どものための巡回劇場を開催し、クラシックバレエの普及にも努めている。また、海外でもウクライナ共和国でゲストプリマとして活躍。中部圏のバレエ芸術文化振興のために30年近く尽力してきたことが評価されて受賞。

### ■ C.U.G. Jazz Orchestra

ジャズオーケストラ(主宰:小濱安浩さん)／名古屋市

名古屋に活動拠点を置くジャズオーケストラ。ライブハウスやイベントでの演奏活動のほか、学生への吹奏楽クリニック等を開催。また、ジャズライブは夜の開催が多いため、平成13年(2001年)からは休日の昼に「こどもたちのためのジャズコンサート」を開催する等、ジャズの普及活動を行なっている。その高い演奏力と、ジュニア世代を中心としたジャズの普及活動が評価されて受賞。

### ■ 辻村 三さん

イラストレーター／名古屋市

中日新聞文化・婦人家庭欄、テレビ愛知新番組テレビタイトル等のマスメディアを発表の場として、名古屋を中心とする東海の祭りや風景を切り絵で表現。切り絵の普及活動に取り組み、生涯学習センターなどを中心に指導を行っている。地元を中心に、100回を超える東海を紹介する個展やユニークな企画展を精力的に行ってきたことが評価されて受賞。

### ■ 三河伝統手筒花火連合会

伝統芸能／豊橋市

約450年前に吉田城(豊橋市)の城主だった大原知尚が吉田神社に奉納したのが起源と伝えられる「手筒花火」。三河伝統手筒花火連合会の会員は、それぞれ仕事を終えてから集まり、手筒作りを行っている。竹の採取から火薬を詰めるまで、すべて自分たちでこなすことが古くからの決まりとなっており、手筒花火の伝統を支え、守り続けてきた活動が評価されて受賞。

### ■ 安江 都々子さん

ドラゴンズ私設応援団旗振り役／北名古屋市

自身が過労の際、医師がナゴヤ球場に連れて行ってくれたのがきっかけでドラゴンズファンに。いつしか応援団員として旗を振るようになった。スターティングメンバーを予測して旗を準備したり、ベンチの動きを見てアナウンスの前に代打用の旗をセットするなど、その読みと手際の良さは周りの応援団員も舌をまくという。高齢にも関わらず、毎年元気に活動していることが評価されて受賞。

## 大衆文化部門 受賞者の声



### 誰もが気軽に楽しむことができるバレエ公演を

越智インターナショナルバレエ  
越智 久美子さん

大衆文化部門を受賞させていただき、文化はやはり大衆が動かし、育てていくものだ実感しています。

私たちは、子どもから大人まで一人でも多くの方に本格的なバレエを観ていただくことを目指し、公演活動に取り組んでいます。レベルの高い舞台を作り上げることと、誰にでも手軽に楽しんでもらうことの両立は苦勞も多いですが、公演を観てくれた多くの方々から「明日への活力が湧いた」「夢の世界に浸ることができた」「満ち足りた気持ちになれた」といった言葉をいただくことは何よりの喜びであり、活動の励みになります。

これからもクラシックからコンテンポラリーまで、より多くの方に楽しんでいただける公演を続けていくとともに、斬新な発想と豊かな芸術性を持った見応えのあるバレエをお届けしていきたいと思っています。

### 三河地方の伝統文化「手筒花火」を後世へ

三河伝統手筒花火連合会  
大羽 康雄さん(現会長)

三河伝統手筒花火連合会が結成10年にしてこのように認めていただいたことに対し、うれしさと同時に、450年の歴史を持つ手筒花火の伝統を継承していく者として、身の引き締まる思いです。

われわれの連合会は、豊橋市内の各神社の祭りに手筒花火を奉納している14の団体・約2,000人で構成されており、毎年、手筒花火をメインとしたイベント「炎の祭典」で花火を披露しています。手筒花火は、材料の竹取りから火薬込めまでの制作作業、そして最後の放揚(筒型の花火を抱え、天に向けて揚げる)までをすべて奉納者自身が行うのが特徴で、見た人に必ず感動してもらえる花火であると自負しています。

今後も、この三河地方特有の文化を受け継いでいくとともに全国に発信し、ぜひ手筒花火の醍醐味を日本の皆様に味わっていただきたいと思っています。



# 社会福祉部門

平成5年(1993年)、地域福祉活動の分野にもスポットを当てようと、愛遊協青年部会等の主催により併設された「パチンコ福祉応援賞」。平成11年(1999年)には、新世紀を迎えるのを機に「パチンコ大衆文化賞」との統合が図られ、現在の「パチンコ大衆文化・福祉応援賞」の名称が誕生した。

## パチンコ福祉応援賞(社会福祉部門)創設者より



日本遊技関連事業協会 会長／  
ファミコーボレーション代表取締役  
元愛知県遊技業協同組合連合会 理事長  
元愛知県遊技業協同組合 初代青年部会長

深谷 友尋 氏

### 真摯に福祉活動に取り組む人々に光を

愛遊協にいた当時、遊技産業は大衆の娯楽として地域の多くの皆様に支持されていることを思い、その恩返しはできないか、社会のために何かできることはないかと常々考えていました。愛遊協の青年部が設立され、その初代青年部会長を務めたのを機に、同時に何か事業を立ち上げようと、日本の福祉の第一人者であられる寛仁親王殿下にご指導を仰ぎました。98名の青年部員とともに、福祉活動の原点から“共に生きる”福祉の哲学を学び、以来、様々な実践活動に取り組みました。

その頃には、親組合が主催する「パチンコ大衆文化賞」はすでに8回目を数え、着実に県下で認知されており、われわれ青年部の活動も軌道に乗っていました。そこで、決して派手ではないけれど、真摯に福祉活動に励む人々に光を当てることも福祉活動の1つであると考え、青年部の活動として発足したのが「パチンコ福祉応援賞」です。その後、親組合との活動統合により「パチンコ大衆文化・福祉応援賞」として現在に至っています。

今回、この事業が「社会貢献大賞」をいただくことができたのは、当時の小野理事長をはじめとする愛遊協の歴代理事長、理事、組合員、そして青年部の並々ならぬ努力の結果であると考えます。この栄誉の受賞を機に、より一層地域社会に貢献できる「パチンコ大衆文化・福祉応援賞」となることを願っています。

## 平成18年度「社会福祉部門」受賞者一覧

### ■ 愛知県要約筆記者連絡会

代表:井川啓子さん/常滑市

手話の習得が難しい聴覚障害者に文字で情報を伝える「要約筆記」のボランティアを行っている。県下で活動する要約筆記サークルを束ねるため、20年前に連絡会を設立。プロを目指す筆記通訳者の養成のほか、聴覚障害者の外出に同行して会議での情報保障等にも活躍している。その地道な活動が評価されて受賞。

### ■ 川田 太志さん

名古屋市

ダウン症という知的障害を持ちながら写真活動を続けている。平成10年(1998年)から平成15年(2003年)までに中部二科展で3回入選するなど、数々の写真コンテストで入賞。写真活動を通じて「障害があっても何かに打ち込むことができる」ということを障害者やその家族、また健常者にも伝えている。障害者の自立の希望となる活躍が高く評価されて受賞。

### ■ 桜花学園高等学校 インターアクトクラブ

顧問:河合保昌さん/名古屋市

平成7年(1995年)に設立。月2回、聴覚障害者を招いて「手話講習会」を開催している。また、手話学習の一環として「手話コーラス」を取り入れ、身体障害者福祉大会等で発表。その他、高齢者のデイサービスでの「てあそび」活動、福祉施設・保育園でのボランティア活動等も展開。地域に密着した多彩な活動が評価されて受賞。

### ■ 黒田 和子さん

北名古屋市

小児結核治療薬の副作用により重度の難聴となるも、社会に向かって自ら「声」を出すことの重要性に目覚め、聴覚障害者の福祉増進活動に取り組んでいる。愛知県下のボランティア養成講座の講師を担当するかたわら、「愛・地球博」や「中部国際空港」のデザイン研究会部会員に就任し、聴覚障害者の立場から要望・提言を発信する活動が評価されて受賞。

### ■ 奥谷 いつ子さん

幡豆郡

車いすアスリートの先駆者として知られる。ソウルパラリンピックでは女子フルマラソンで銅メダルを獲得。愛知県に来てからは、車いす競技を続けながら地域の小中学校で福祉実践教室の講師を務めるほか、平成18年(2006年)には車いすバスケットチームの本格的活動に尽力。競技者としての成果と、後進の育成活動が評価されて受賞。

### ■ 重度身体障害者の施設 人形劇団「紙風船」

代表:林 智恵さん/名古屋市

平成8年(1996年)発足。日本で唯一のプロの車いす人形劇団。小学校や幼稚園、地域の祭りなど、様々な場所で公演を重ねている。愛・地球博での2度の公演のほか、香川県で開催された「とらまる人形劇カーニバル」への参加や、NHK教育テレビ「きらっといきる」に出演するなど、精神的に活動している。障害者の自立活動の努力が高く評価されて受賞。

## 社会福祉部門 受賞者の声



### 見た人が元気になれる、“人の心を動かす人形劇”を

重度身体障害者の施設 人形劇団「紙風船」  
林 智恵さん(代表)

受賞によって私たちの活動がたくさんの方に知っていただけることは何よりうれしく、本当に感謝しています。

紙風船は、様々な障害を抱えた仲間たちが役者として活躍する人形劇団です。彼らが日々の体調を管理しながら練習や公演に望むことは決して容易ではありませんが、多くのボランティアの方々や、応援してくれる皆様の温かい言葉や笑顔に支えられ、公演数は100回を超えました。こうして、仲間たちの人形劇に対する思いと周囲の支える輪がつながり、広がっていくことは、かけがえのない大切なものです。

私たちはこれからも色々な場所に足を運び、ボランティア公演等にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。そして、“見てくれた方に元気をあげたい”という想いが、紙風船のようにゆったりと皆様の心に届くことを願っています。

### 活動を通して、障害を持つ子どもたちの目標になれば

車いすアスリート  
奥谷 いつ子さん

私は、車いすアスリートとして車いすマラソン大会や身体障害者のスポーツ大会等に参加するとともに、地域の小学校等を訪れ、子どもたちに車いすスポーツに対する理解を深めてもらうための活動にも取り組んでいます。今回、活動の成果が受賞という形になって表れたことはとても良かったと思っています。

日々の仕事と活動を両立させていくことは大変ですが、子どもたちと話し、ふれあう時間は何より楽しく、充実しています。平成19年(2007年)には、会社で活動しているバスケットボールクラブで身体障害者施設を訪問する予定があるのですが、障害を持つ子どもたちを元気づけ、彼らの目標になることができれば、と思います。また、今後はこうした活動のほかにも、多くの仲間を募り、できるだけたくさんの行事に積極的に参加していきたいです。

